

< 介護・医療連携推進会議における評価_ > ※公表用

【事業所概要】

法人名	株式会社 太陽メディケアサービス	事業所名	メッツ川崎ヘルパーステーション
所在地	(〒 940-0864) 新潟県長岡市川崎2丁目2478番地1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・一体型のメリットを活かし、介護看護の連携・情報共有を強化、ケアマネ・医療機関などとの連携を強化し、その方の有する能力に応じた日常生活を営むことができるようケアサービスを行う。
- ・法人内研修や取引業者が主催する研修会を活用し、職員へのサービス・制度理解の向上を図っている
- ・ICTの積極活用により、即時性のある情報共有を図っている

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 11 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	(21) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2026 年 2 月 20 日	出席人数(合計)	(9) 人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員(4 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員(1 人) 地域包括支援センター職員(1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者(1 人) <input type="checkbox"/> 利用者(0 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族(1 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者(1 人) <input type="checkbox"/> その他(0 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・法人として、必須項目のような机上で行う研修については来期よりイーラーニングシステムを取り入れる。援助の間で研修を受けることで職員の負担軽減に努めていく。 ・BCP に沿った、感染症と災害時について机上訓練、ロールプレイを実施。地域の状況を含め地域在宅の方の個別避難計画へ活かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今期より、机上で実施する必須項目について、イーラーニングシステムでの研修を開始した。 1 週間の受講期間で、援助の間などで事業所内で受講できるよう調整した。 ・BCP 訓練として、机上訓練、ロールプレイを感染症・災害想定で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イーラーニングを活用しての研修は職員間へ定着してきている。 動画資料や担当者からのコメントをいつでも振り返えられる、集合するための時間確保や移動の手間がなくなり、生産性の向上につながっている。 ・災害訓練では、災害備蓄食の保管場所や使用方法について学ぶ機会となった。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント、モニタリングから利用者の意向を汲み取り個別計画に反映させる。その為にも 1 日 3 回の小ミーティングを継続、内容の充実を図る。 ・今年度作成したケアチェックシートを活用し、誰が見ても利用者の援助について理解できる体制を構築する。新人職員の利用者理解にも活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント、モニタリングの内容について情報共有ツールを使用し共有した。 1 日 3 回の小ミーティングは継続し、アセスメントとモニタリング情報についての意見交換の場ともしている。 ・訪問介護計画書の短期目標更新時にケアチェックシートの見直しと更新を実施。更新時までの変更、追加内容を随時追加、追加したことを発信、周知した。 ・BCP 災害編について見直し、修正を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員により報告情報にバラツキがある。 来期の研修で、本人、ご家族、関係各所が何の情報を知りたいのか、計画作成者・サ責の業務内容を理解するための研修を法人で取り入れ、情報の質を上げていく必要がある。 ・BCP は今期の修正で、感染症・災害ともに見直しが完了した。 より現場に即した内容に整え、在宅援助時や訪問途中での災害発生時に対応できるようにしていくことで職員が安心して援助を行えるようにしていきたい。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の日々の状態を医療機関やケアマネージャー、ご家族へ随時報告し、援助内容をその方に合ったものに変更していく。その際に、連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関への随時報告を継続した。 ご家族、ケアマネへは特に状態変化について随時報告し、利用サービスの変更、追加や区分変更について相談を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ援助内容の変更や追加、介護度の見直しの相談に至ったのかを、本人・家族・関係各所に根拠ある説明ができるよう、報告・相談内容についての質を上げると共に、報連相

		<p>機関からもインフォーマルサービスの情報を確認し取り入れていく。</p>	<p>・ヒヤリハット、事故報告の分析を法人委員会内で実施。事業所会議で共有、防止策について検討した。</p>	<p>の質も向上させる必要がある。</p> <p>・事業所会議内で実施する「高齢者虐待/身体拘束」研修について、委員会内で協議し「スピーチロック」の研修を実施。</p> <p>根本原因を考える機会とした。</p>
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28~32)</p>	<p>・利用者の日々の状態を医療機関やケアマネージャー、ご家族へ随時報告し、援助内容をその方に合ったものに変更していく。その際に、連携機関からもインフォーマルサービスの情報を確認し取り入れていく。</p>	<p>・事業所内での情報共有を密にし、管理者やサ責、計画作成者より関係機関へ随時報告した。ご本人・ご家族の希望を確認しその方に合った手順書の見直しを行った。</p> <p>・民生委員とのつながりを持つ目的で法人として長岡市福祉総務課へ訪問した。</p>	<p>・インフォーマルサービスについて、地域との連携や情報収集について不足している。</p> <p>・情報発信と随時の手順書の見直しは行えている。こちらからの確認だけでなく、本人・家族からも積極的に相談できる関係づくりを目指していきたい。</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)</p>	<p>・地域活動へ包括と相談しながら参加し、地域活動を通してインフォーマルサービスとして活用できるものを取り入れていく。</p> <p>・随時、地域のサービス情報の確認をする。</p> <p>・事業周知の為の説明会の定期開催を継続していく。</p>	<p>・推進会議の場の意見交換を地域との関係づくりとして活用している。</p> <p>・9月に全国10か所の定期随時事業所や法人を招いた視察会を行った。</p> <p>・自事業所のチラシを刷新し、居宅や病院へ出向き周知活動を行った。</p>	<p>・視察ではそれぞれが抱える悩みや問題点を共有するとともに、自社の取り組みを知っていただく機会となった。</p> <p>・地域の方へのサービスの理解を深めてもらうため、民生委員の方を招いた説明会や地域のサークル活動に参加させていただく機会を設けていきたい。</p>	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・e-ラーニングを活用しての研修は職員間へ定着してきている。動画資料や担当者からのコメントをいつでも振り返えられる、集合するための時間確保や移動の手間がなくなり、生産性の向上につながっている。 ・災害訓練では、災害備蓄食の保管場所や使用方法について学ぶ機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・e-ラーニングを活用した研修体制は定着しているが、今後は「実施」から「効果測定」へ発展させる。 ・事業理念について、理解度の確認を実施し、年2回理念・事業所目標の再確認機会を設け、職員の理解度と実践状況を把握する。 ・BCPについては感染症・災害ともに見直しが完了しているため、今後は実践力強化を目的に、単独訪問時の災害発生想定や新潟特有の雪害を想定したロールプレイ訓練を年2回実施する。また、地域在宅利用者の個別避難計画を定期的に点検し、実効性のある内容へ更新する。 	
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員により報告情報にバラツキがある。来期の研修で、本人、ご家族、関係各所が何の情報を知りたいのか、計画作成者・サ責の業務内容を理解するための研修を法人で取り入れ、情報の質を上げていく必要がある。 ・BCPは今期の修正で、感染症・災害ともに見直しが完了した。より現場に即した内容に整え、在宅援助時や訪問途中での災害発生時に対応できるようにしていくことで職員が安心して援助を行えるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で報告内容の質にばらつきがあるとの評価を踏まえ、報告、モニタリングの標準化を図る。 ・月1回管理者・サービス責任者による内容確認とフィードバックを実施する。 ・ケアマネージャーへの積極的提案の為、担当者会議前に「課題・経過・提案内容」を整理し、根拠ある提案ができる体制を整える。 ・地域のインフォーマルサービス情報を一覧化し、計画作成時に活用できるよう整備する。 ・未来志向型計画の強化として、重度化予測の視点を明確にし、3か月後の状態予測を踏まえた計画作成を意識的に行う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ援助内容の変更や追加、介護度の見直しの相談に至ったのかを、本人・家族・関係各所に根拠ある説明ができるよう、報告・相談内容についての質を上げると共に、報連相の質も向 	<ul style="list-style-type: none"> ・援助内容の変更や区分見直しに関する説明力向上を目的に、「事実・経過・課題・提案」の4点整理法を活用し、根拠ある報告ができる体制を整える。年2回ロールプレイ研修を実施し、

	<p>上させる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所会議内で実施する「高齢者虐待/身体拘束」研修について、委員会内で協議し「スピーチロック」の研修を実施。 <p>根本原因を考える機会とした。</p>	<p>説明力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括的支援の視点を強化するため、地域包括支援センターとの情報共有の機会を年2回設けるとともに、退院支援看護師や医療機関向けの説明機会を設け、切れ目のない支援体制を強化する。
<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28~32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマルサービスについて、地域との連携や情報収集について不足している。 ・情報発信と随時の手順書の見直しは行っている。こちらからの確認だけでなく、本人・家族からも積極的に相談できる関係づくりを目指していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの理解向上が課題であるため、職員向けに要点をまとめた資料を作成し、確認研修を行う。 ・インフォーマルサービスの活用促進のため、地域資源マップを作成し、年1回更新する。 ・民生委員や地域団体との情報交換の機会を設け、地域との関係強化を図る。 ・地域在宅推進の観点から、地域向け説明会や見学会を継続し、サービス理解の促進と地域展開を図る。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視察ではそれぞれが抱える悩みや問題点を共有するとともに、自社の取り組みを知っていただく機会となった。 ・地域の方へのサービスの理解を深めてもらうため、民生委員の方を招いた説明会や地域のサークル活動に参加させていただく機会を設けていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス導入効果の可視化を図るため、目標達成事例や訪問回数減少事例、入院回避事例等を整理し、事業所内で共有する。 ・利用者、家族への年1回アンケートを実施し、「在宅生活継続への安心感」について定量的に把握する。 ・広報活動について、見学会後の利用開始件数等を把握し、広報効果の検証を行う。

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します